

2016年度商学部専門科目 「経営史」
第12回「世界の工場」中国の分散型生産システム

本日の目標

前回は元村田製作所の大島先生にご講演をいただき、前々回は現在の生産システムの潮流ともいえる分散型生産システムについてお話しした。村田製作所、サムスン電子はともに、現在の分散型生産システムの中で、いかにして、自らの立ち位置を守りながら、自らの研究開発を踏まえて活動している姿を示していた。しかし、現時点では、中国の生産システムが両者を凌駕して「世界の工場」と化している。そこで、今回は何を持って中国は現在の位置を占めるに至ったのかを検討する。

講義内容

0 レポートについて/1 前々回の復習+α/2 前回の大島先生のご講演について/3 今回のキーワード/4 中華人民共和国の分散型生産システム/5 まとめ/6 参考文献/7 次回のキーワード

0 レポートについて

※レポートについて

- 本日の17時までに、学生サポートセンターに提出
- レポート点40点のうち10点を提出点、30点を内容点とします。
- 4回生のみ、1月27日金曜日までにレポートを受け付けます（提出場所は同じ学生サポートセンター商学部係です）。というのは、昨日が今年度の卒業論文の生協提出日だったからです。ただし、その場合、提出点10点はありません。
- 1月20日金曜日の授業時に優秀レポートを発表して、翌週1月27日金曜日授業時にその優秀レポート発表会を実施します。

1 前々回の復習+α

分散統合型生産システムにおける製造活動の変化

SOC化：デジタル回路による制御のもとでの半導体への集約

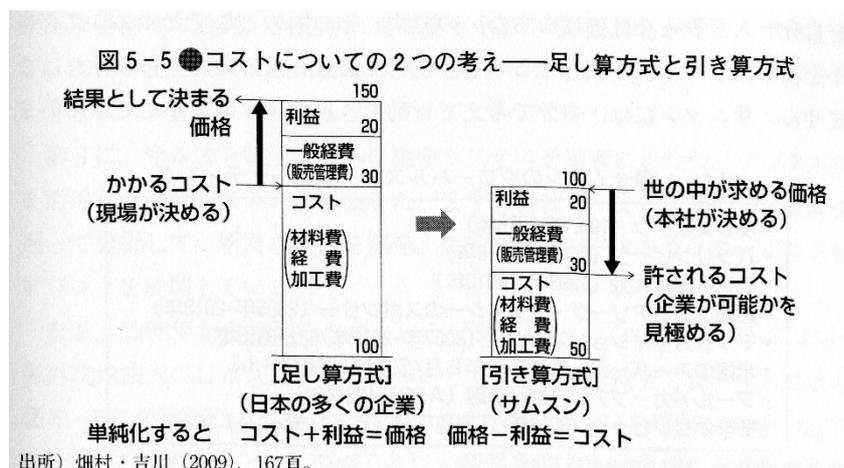
モジュール化：(1)バリューチェーンの中の一分野に立脚

⇒ビジネスモデルを掲げ、これまで以上に「容易」に生産システムへの参入が可能

具体的な成功事例：韓国サムソン電子

地域専門家の活用による市場ニーズの把握、引き算方式の実践（テキスト136、図5-5；資料1）

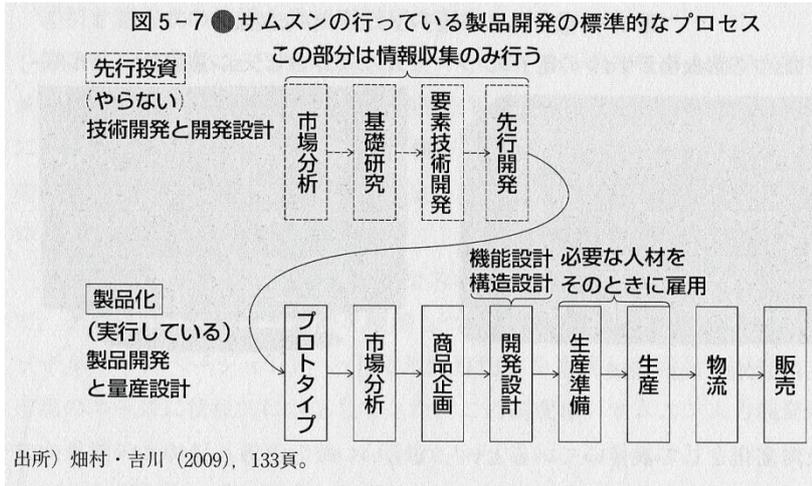
資料1



リバース&フォワードエンジニアリング（テキスト 138-139 頁，テキスト 138 頁，図 5-7；資料 2）による製品開発

日本人技術者の招へい：ジャパンプロジェクト

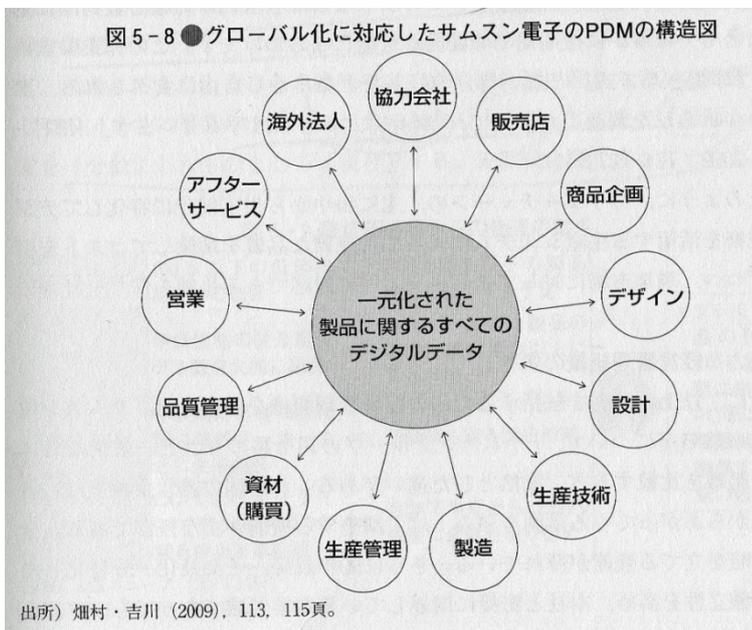
資料 2



出所)中瀬(2016), 138 頁

刺身方式というデジタル技術によるコンカレント・エンジニアリング（日本的マネジメントの一つ）の実現（テキスト 139-140 頁，テキスト 139 頁，図 5-8；資料 3）

資料 3



出所)中瀬(2016), 139 頁。

※3P（パーソナル,プロセス,プロダクト）のイノベーション

⇒日本よりも素早く，安価に，新興国市場中心に供給

2 前回の太島先生のご講演について

日本を代表する電子部品メーカー村田製作所についての講演

「良い製品は良い部品から，良い部品は良い材料から」…研究開発への取り組み

受講生の感想から

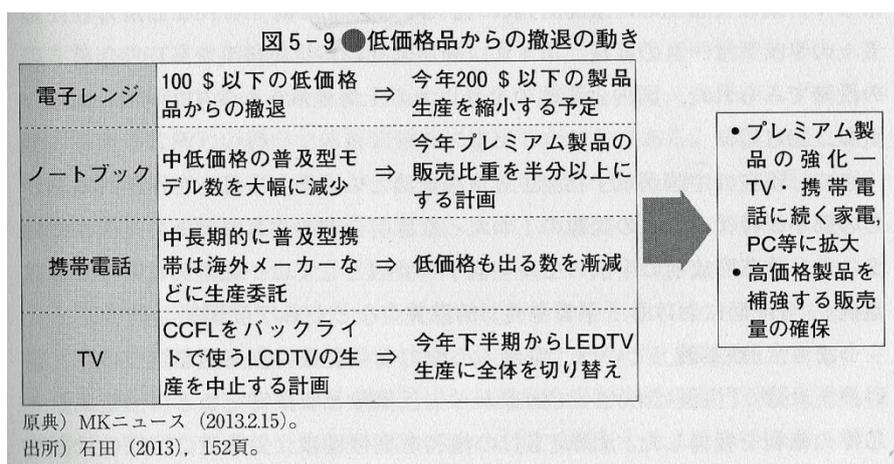
- （3 回生女子）近年スマートフォンやタブレットの販売台数は増加しているうえ，高頻度で新製品が発売されているため，村田製作所さんの製品需要もますます高まるのだろうなと思いました。自社で原料工場

や大型開発拠点をもっていらっしゃるのとこのことで、時代のニーズに合わせた製品開発を絶えず行われるのだと思うと、モノづくりは素晴らしい分、大変難しいものなのだと気づかされました。…こだわりの中の、「海外など広範囲にむやみやたらに拠点を置かない」点に非常に納得させられました。確かに短期的に利益を上げることはできるかもしれませんが、技術流出の懸念や統括の難しさが生じてくるだろうし、主要な技術を国内に留めておいたことが、現在の繁栄につながっているのだろうかと感じました。

- (2回生男子) 独自製品の開発が大事ということを今まで以上に感じました。独自製品を開発することができれば競争相手がおらず、価格などをあまり気にせず販売することができます。でもそれはとてもリスクがあることで、もし開発に失敗したら、多額のお金を消費してしまいます。実際にそれを成功することができるのは自分の信念を強く持って、我慢強く研究することができた会社にだけ成功は訪れると思われました。

◎日本メーカーだけでなく韓国サムスン電子をも脅かす中国メーカーの登場
低価格品からの撤退… (テキスト 141 頁, 図 5-9; 資料 4)

資料 4



出所)中瀬(2016), 141 頁。

※中国のどのような生産システムが韓国サムソンをも脅かすのか

※(2) 社会主義国である中国が、なぜ「世界の工場」となりえたのか

3 今回のキーワード

改革開放路線/グローバリズム/郷鎮企業/大衆資本主義モデル/農民工/環境コスト

4 中華人民共和国の分散型生産システム

4.1 中国における改革開放路線の展開

以前の中国

「鉄茶碗」, 「固定工」 (テキスト 142 頁)

=低生産性, そこからの脱却

(3) 請負制度の採用

ノルマ達成後の成果は自らのもの…農村, 国有企業, 地方財政

特に注目された昇進に結びつけた地方政府間の競争促進

→ 「地方政府コーポラティズム」 (テキスト 144 頁)

鄧小平「先富論」の支持… 「先に豊かになれる人々, 地域から豊かになる」

4.2 多様な中国企業の活動

①開放区の整備と外資系企業の活動

香港に近い広東、福建両省への進出

外資系企業；チャイナサークルを有する台湾企業の進出

1990年代前半にホンハイによる中国進出

高効率な機械導入，農民工を中心とした安価な労働力の大量調達

→(4)素早い量産体制の立ち上げ

⇒世界大での工程間分業(フラグメンテーション)を実施する分散型

…グローバリズムの実践

②中国民族企業…郷鎮企業(テキスト 147 頁)から民営企業へ

歴史的：請負を意味する「包」の継承

経済的：分業 (=分散型) による参入

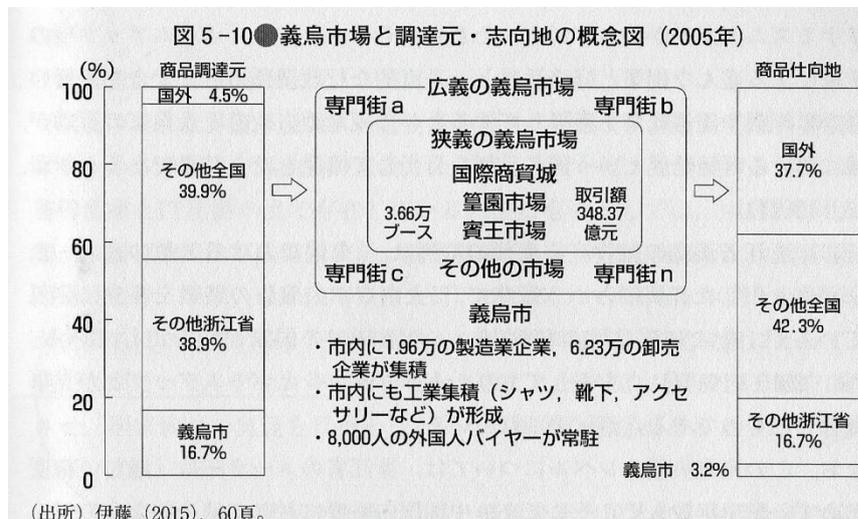
社会的：身分の低い農民工の活躍

⇒特に注目される中低級レベルの産業集積の形成

「垂直分裂」型，(5)大衆資本主義モデルの拡散(テキスト 149-150 頁)

浙江省義烏の集積地(テキスト 150-151 頁, 図 5-10；資料 5)

資料 5



出所) 中瀬 (2016), 151 頁

トップダウンとボトムアップの融合

雑貨生産流通圏の形成

⇒ニセモノを含めた超多品種大量安価柔軟供給の実現

…「世界の工場」(中低級レベル), 新興国市場へ (DVD) ⇒グローバリズムへの参画

⇔ハイアール等による技術高度化の努力…日本人技術者の登用

③国有企業

国家安全, 自然独占等の分野における国有企業の存在

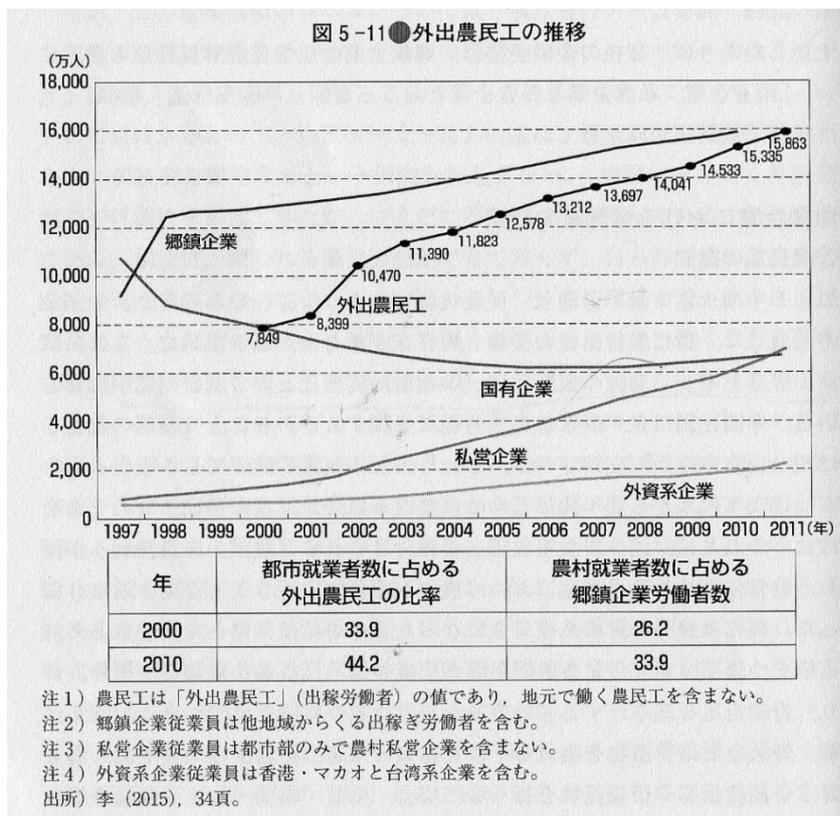
…社会主義的なあり方の提示

4.3 中国経済,中国企業を支える労働者について

(6)底辺で支える「農民工」

出稼ぎする「外出農民工」数の推移(テキスト 154 頁, 図 5-11；資料 6)

WTO の加盟時期



出所) 中瀬 (2016), 154 頁。

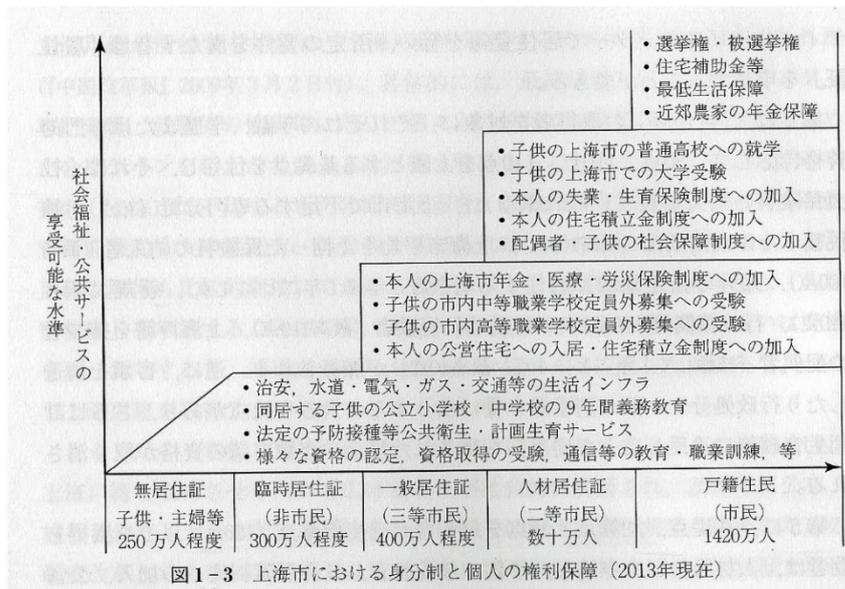
中国社会における農民工

三農問題 (農業の停滞と不安, 農村疲弊, 農民の相対的貧困化)

社会的に低い身分 (資料 7), ますます低める非正規従業員化

農民工の置かれた劣悪な条件 (テキスト 155-156 頁, 資料 8)

資料 7



出所) 嚴 (2016), 36 頁。

資料 8

過去 20 年間, 上海市政府は流動人口を管理するため, 戸籍制度を何回も改革した。しかし, その主な狙いは, 戸籍住民の利権を守り, 経済発展に必要な高学歴者を誘致することであり, 農民工を中心とする流動人口の権利状況を改善することではなかった。その結果, いまの上海市は, 上海戸籍を持つ市民, 標準点をクリアした人材居住証を持つ 2 等市民, 標準点に及ばなかった一般居住証の 3 等

市民、臨時居住証の非市民、さらに居住証すら取得できずにいる流動人口が構成する複雑な階層社会となっている。/図 1-3 (中瀬注；資料 7 のこと) は様々な身分を持つ者とそれぞれの享受する社会福祉・公共サービスの水準を示す概念図であり、上海市における戸籍制度改革の到達点を反映している。人材として誘致された者(2等市民)は、選挙権・被選挙権や住宅補助金といった戸籍住民向けの権利・福祉を除けば、戸籍住民とほとんど同じようになっている。一般居住証を持つ者(3等市民)の権利も随分拡大しているが、失業・生育保険への加入や子供の上海市での大学受験で依然として差別されている。また、零細な商業・サービス業に従事する自営業者や家政婦(非市民)は臨時居住証しか取得できず、それゆえ、年金・医療・労災保険への加入や子供の学校教育、公営住宅への入居で厚い壁が立ち塞がる。(巖, 2016, 36-37 頁)。

※翻弄される農民工 (DVD)

⇒低い労働コストの実現

4.4 激化する中国の環境問題

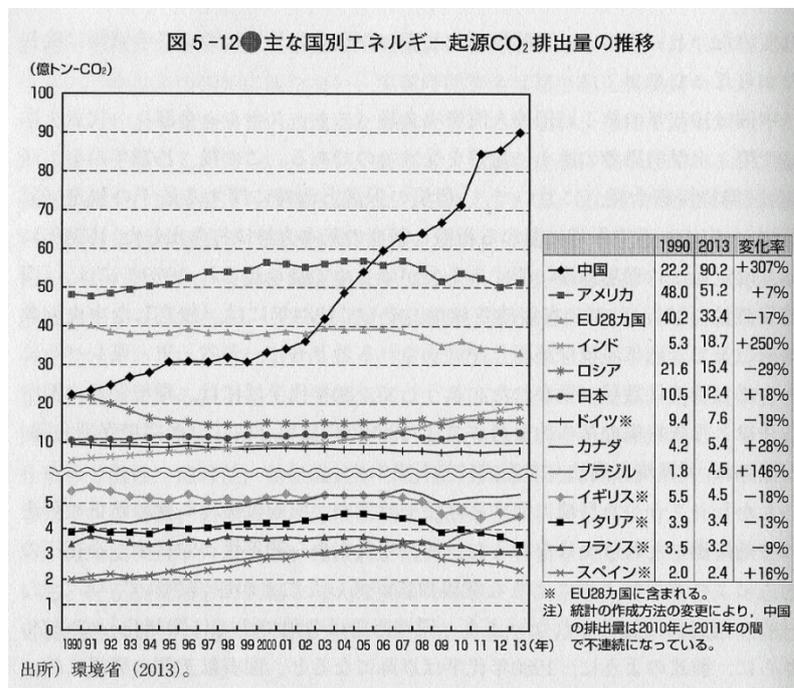
着手の速かった環境汚染への取り組み

(7) 郷鎮企業の爆発的な発展, 競い合い

→企業による不十分な環境対策

CO2 排出量の急増(テキスト 158 頁, 図 5-12 ; 資料 9)

資料 9



出所) 中瀬 (2016), 158 頁。

大変な水質汚染 (テキスト 159 頁)

⇒環境への配慮の低さ…資源問題へ

4.5 中国を起点とする資源問題

レアアースについて

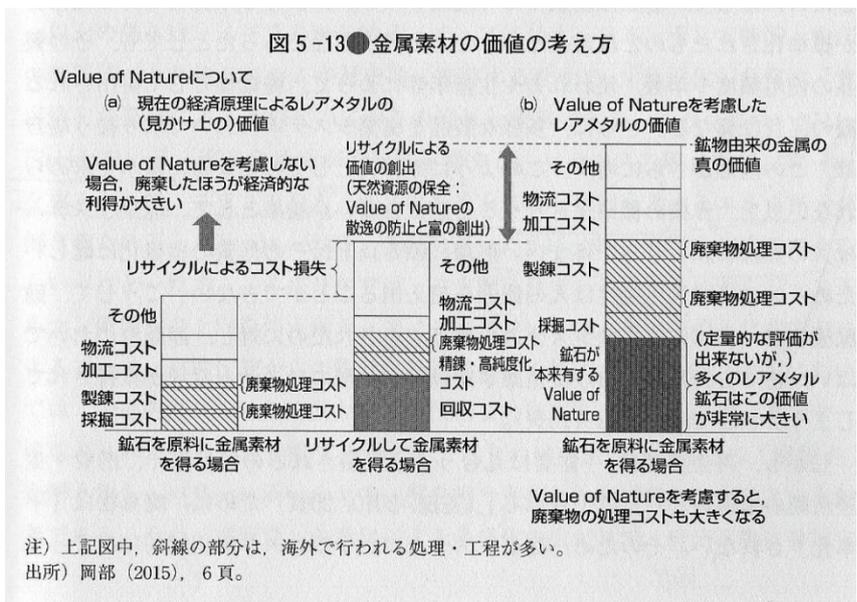
「産業のビタミン」

中国における低い環境コストによる供給で他者を圧倒, 独占 (テキスト 160 頁)

本来の鉱石の発掘・精錬について

環境破壊, 環境資源の喪失によって資源循環, 生産循環, 生命循環の妨害へ

(8) Value of Nature を配慮した扱いの必要 (テキスト 161 頁 図 5-13 ; 資料 10)



出所) 中瀬 (2016) 161 頁。

そもそも廃棄とは何か

標準化の難しさ

廃棄物処理コストの上昇 (テキスト 162 頁)

静脈流産業としての発展へ

※(9) 持続可能な発展にとって不可欠

4.5 分散型生産システムの功罪

多様な参加者の参画を可能にしたことによる活発化, 一定の経済的な成功

グローバルのもとでの競争激化

非正規従業員の世界的な増大

環境への配慮, 資源循環への配慮の低下

⇒地域経済にとってプラスかマイナスか

⇒(10) 反グローバリズムのうねり

英国の EU 離脱, 米国トランプ大統領の誕生

※寛容性を認めつつ, 新たな原理のもとでの統合, 地域の復権

5 まとめ

今回の課題

- 特に中国で発展している分散型生産システムの功罪とは, 何でしょうか。
- グローバル化はどのような影響を与えているのでしょうか。

6 参考文献

朝元照雄 (2013) 「鴻海 (ホンハイ) における発展の謎を探る」『交流』第 865 号, 1-11 頁,
[https://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/0/4ac55851fb10882749257b58000c2288/\\$FILE/04-01.pdf](https://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/0/4ac55851fb10882749257b58000c2288/$FILE/04-01.pdf), 2017/01/13

巖善平 (2016) 「戸籍制度改革と農民工の市民化」加藤弘之・梶谷懐『二重の罌を越えて進む中国型資本主義』ミネルヴァ書房, 21-42 頁

7 次回のキーワード

反グローバリズム/地域創生 (地域再生) / 環境経営/地域循環/寛容性